テニスと私

経団連外国人政策委員長
南アジア地域委員長
東日本旅客鉄道会長
深澤祐二（ふかさわ　ゆうじ）

生来の怠け者である。

正月に立てるNew Year's Resolutionsは達成したことがない。スポーツジムに通って10キロ減量する、英会話教室に通ってTOEIC700点取るなどなど、枚挙にいとまがない。学生時代の試験も一夜漬けでなんとかクリアしてきた。

そんな私に30年以上続いているものがある。テニススクール通いである。40歳くらいの時上司から、取引先とテニスをやるので、お前も出てこいと言われ（その頃はパワハラという言葉はなかった）、妻に愚痴ったら「どうせやるならスクールに通ったら」と返されたので始めることとなった。学生時代はヨットをやっていたので、それまでラケットを握ったことがほとんどない。ちなみに妻は学生時代にテニスをやっていて、今でも上から目線で私のテニスを批評する。もちろん取引先とのテニスには準備が間に合うわけもなく、ほとんどボールボーイでそのあとの打ち上げでカバーした記憶がある。

それから30年も続けていられるのは、下手に目標を立てていないのがいいのかもしれない。試合などはもちろん出ないし、仲間とやる時もその後の懇親会目当てである。そんな私とテニスのかかわりに変化があったのは、1年ほど前だった。思いがけずに公益財団法人日本テニス協会の会長をやってほしいというご要請をいただいたのである。なぜ私に白羽の矢が立ったのかよくわからないが、前任の山西健一郎さん（三菱電機元社長・会長）から突然の連絡をいただき、思わずのけ反ってしまった。今までいわゆるスポーツの世界との接点は会社のスポーツチームの応援をしていただけで、もちろんテニスは門外漢であった。

最初は迷ったが、最後はやはり妻の「迷ったらやったら」というひと言だった。就任して1年、内外、古今東西（?）の有名選手に会って、これまた生来のミーハー精神は満たされたが、協会としての課題は山積、まさに日本の課題の縮図である。各地の大会はスタッフ、とりわけ審判員を集めるのに一苦労、その中でもベテラン大会はにぎわっており、85歳以上のクラスまであって、90歳以上の参加者もいる。一方で若年層の競技人口が急激に減っており、特に女性選手の減少率が大きい。一説では日焼けが嫌われているとのこと。ゴルフとどこが違うのか？

各県の知事ともお会いして、「テニピン」という小学生向けスターティングプログラムのPRにもこれ努めている。

「健康寿命」という言葉を最近よく聞くが、デンマークの25年かけた追跡調査では、スポーツの中でテニスが一番「健康寿命」を伸ばすのに効果的だという論文も出ている。9年以上伸びるとのこと。

私もこれから一生付き合えれば本望である。皆さんもテニスを始めませんか？

日本テニス協会 会長に（左から二人目筆者）